

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）事後評価調書

都道府県名	長野県	事業実施主体	岡谷市	地域再生計画名	岡谷市「安全安心で魅力のあるまち 岡谷」
計画期間	平成25年度～平成30年度	評価責任者	長野県林務部長 井出 英治 岡谷市建設水道部長 山岡 泰一郎 岡谷市産業振興部長 藤岡 明彦		

①地域再生計画に記載した 数値目標の実現状況	指標		基準値		中間目標値		最終目標値		事後評価	達成状況		最終目標値の実現状況に関する評価	
			基準年度	年度	中間実績	基準年度	最終実績						
	指標 1	迂回路確保 （地域間ネットワーク網の構築）	災害時 孤立集 落の解 消 4集落	H24		H28	災害時 孤立集 落 1集落 （3/4解消）	災害時孤 立集落の 解消 0集落	H30	災害時孤 立集落の 解消 0集落 （4/4解消）	○		
指標 2	森林の整備（搬出間伐面積の増加）	年間搬出 間伐面積 100ha	H24		H28	年間搬出 間伐面積 92ha	年間搬出 間伐面積 130ha	H30	年間搬出 間伐面積 68ha	△	3	2	平成29年度から搬出間伐に関連して合板・製材生産性強化対策事業が活用され始めたが、従来の事後申請型から事前申請型になり補助制度の方針転換を伴ったことから、制度利用にあたって事務手続きの確認や施業実施の準備に時間を要し、間伐整備の着手が進まず、間伐面積が減少となった。 危険箇所5箇所は大雨が降ると頻繁に洗掘されその都度維持修繕が必要であったが、林道整備による舗装や待避所の設置により大幅に改善され、安全通行の確保が図られた。
	指標 3	安全通行の確保 （林道高尾山線の危険箇所の改善）	林道 危険箇所 5箇所	H24		H28	林道 危険箇所 0箇所	林道 危険箇所 0箇所	H30	林道 危険箇所 0箇所			
②地域再生計画に記載した 数値目標以外の波及効果の 実現状況	指標 1												
	指標 2												
③事業の進捗状況	事業名		整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価							
計画			中間年度 （H28）	最終実績									
特別措置を適用して行う 事業	市道整備事業（整備延長）		3. 74km	1. 65km	3. 50km	交通の主体である県道のバイパス道路は狭隘ですれ違いが困難な状況であり、道路緊急時の迂回路確保が求められるところであったが、地方創生道整備推進交付金を利用した市道整備、林道整備を実施した結果、「安心・安全に」通行することが可能となり、緊急時のバイパス道路網の構築が図られ、幹線道路である県道及び市街地の渋滞緩和につながる事が予想される。							
	林道整備事業（整備延長）		2. 0km	1. 93km	1. 93km	整備が計画通り完了した。 危険箇所の改修が進み、洗掘が頻繁に発生していた林道が安全に通行が出来るようになった。改修によって大型車両のアクセスが向上し、平成29年度から活用が始まった合板・製材生産性強化対策事業による搬出間伐面積の増加が期待されたが、補助制度の方針転換に対応するため事務手続き等に時間を要し、間伐施業の着手、実施が進まない状況であった。しかし、緊急時のバイパス道路網の構築が図られ、幹線道路の迂回路としての利用が期待される。							
その他の事業	岡谷市民病院建設事業		住民の命と健康を守り、求められる幅広い医療の提供に対応できる総合病院として、よりよい医療の提供が出来る環境を整え、安心して思いやりのある生活と地域活力の向上を図る。			平成28年度に完成し、病院事業として新規に開院を迎えている。 岡谷市民病院建設事業が完了したことにより、質の高いよりよい医療を提供できる環境が整った。基本理念に「思いやり」を掲げ、「救急医療の充実」、「安全安心の医療の確立」、「地域連携の推進」を図り、災害医療の拠点となり、市民生活の安全安心を実現している。							
	新消防庁舎建設事業		あらゆる災害や緊急事態に備えた消防施設として、災害応急対策の拠点機能を有するとともに、大規模災害時等には、住民の一時避難場所として受け入れ可能な庁舎の建設を行う。			平成26年度までに完了し、あらゆる災害や緊急事態に備えた消防施設が完成した。 消防本部として集約し、専門的かつ効率的な事務が可能となった。また、消防指令センターを整備することにより、諏訪地域全てを受付、各消防署・分署に指令通信を行い、災害発生現場に最も近い消防車両を出動させることが可能となり、現場到着時間短縮と的確な消防車両の選択、編成が可能となった。							
	まちづくり活性化事業		岡谷市独自の特色を生かした取り組みである、童画のまち・うなぎの町・太鼓のまちによるまちづくりを推進し、まちなかの賑わいや地域の活性化を図る。			地域資源で活かした魅力あるまちづくりを進めるとともに、ブランドブックに沿った取り組みを推進した。 信州シルクロード連携協議会を発足し、シルク岡谷をキーワードに、観光客の誘客促進を図った。また、岡谷ブランドを積極的に発信することで本市の認知度を高め、観光客の増加、交流人口の増加につながったと考えている。							
	企業誘致推進事業		企業誘致を推進し、働く場所を確保することで、定住人口の増加及び地域経済の活性化を図る。			年に数件の企業誘致を推進し、市内企業数の増加とともに雇用者を創出し、経済の活性化に繋がった。 土地取得及び事業所確保に対する経済的側面からの支援や、産業集積地である岡谷市の魅力発信により、効果的な企業誘致実施した。誘致した企業のアフターフォローも行い、企業の流出防止にも努める。							
計画外で独自に実施した 事業	塚間川流域浸水被害対策プラン		河川事業と下水道事業の連携により、近年浸水被害が発生し、危険性が高い地域を集中的に整備を実施する。			現在までに大川の河川改修は終了し、塚間川についても岡谷市役所前からTPR下流地点までの河道整備を実施予定。これらの整備により、大幅に浸水被害の軽減が図られる見込み。また、雨水渠整備では、郷田幹線が完成し、今後は山下幹線を実施する予定。							
	主要地方道下諏訪辰野線改良事業		岡谷市民病院建設に伴う右折レーン設置及び歩道の改修を実施。			右折レーンの設置による渋滞の緩和や歩道整備による歩行者の安全確保が図られた。							
	岡谷蚕糸博物館 シルクファクト岡谷 リニューアル事業		シルクの世界を五感で感じることでできる世界的にも類まれな博物館として生まれ変わった。			平成26年度にリニューアルオープンし、館内には製糸工場を併設する、世界に類の無い博物館として、賑わいを見せ、現在までに、18万人を越える来館者があった。							
④評価方法	令和元年8月下旬に地域再生計画評価委員会を開催、最終目標値の実現状況に関する評価・検討等を行った。												
⑤事後評価の公表方法	岡谷市土木課のホームページに掲載。												
⑥計画全体の総合評価	本地域再生計画では、地域創生道整備推進交付金を活用し災害時孤立集落の解消及び更なる森林整備の活性化を図るために、市道整備と林道整備を一体的に実施し、地域間ネットワーク網が構築できたことで、緊急時における主要幹線道路の迂回路が整備されたことによる市街地の渋滞緩和が期待される。特に、1期目の地域再生計画「安全で安心なたくましいまち 岡谷」で整備した17号線、湊5号線については継続的に整備ができたため川岸地区、湊地区等は幹線道路に頼らざるを得ない状況であったが、整備が実施されたことにより災害時孤立集落は解消された。 搬出間伐事業は事業体や個人が主体となって行う事業であるが、平成29年度から林業補助制度の方針が変わり従来の事後申請型に加えて事前申請型が導入されたため、補助制度活用の準備に時間を要し、搬出間伐事業が進まずに面積が減少した。 また、今回の計画事業の他に、岡谷市民病院建設事業や、新消防庁舎建設事業に関連して県道、市道の整備、雨水渠整備、塚間川の河川改修等の周辺環境整備も実施され大きな成果を挙げた。												
⑦今後の方針等	本地域再生計画では、市道整備と林道整備が実施され、地域間ネットワーク網が構築でき、緊急時における主要幹線道路の迂回路が整備されたことによる市街地の渋滞緩和が期待される。今後は定期的に実施する道路パトロール等により適正に維持管理を実施していく。 平成29、30年度では、林業補助制度の方針転換があり、制度活用に向けた事務手続きの確認や施業の準備に時間を要し搬出間伐面積は減少となったが、林道整備により大型車両のアクセスが向上し、搬出間伐の促進が期待されることから、今後は長野県への補助制度の充実・活用への協力を依頼すると共に、林業関係者への説明を実施し林業を活発に推進していきたい。なお、平成31年度の搬出間伐面積は約150haを見込んでいる。 また、植樹などによる地域住民の交流や森林としての機能保全と環境整備を実施し、災害に強い森林作りや森林保全を推進し、地域住民の活力と地域に対する愛着の醸成を図っていきたい。												